

久御山町特定地域防災協議会 事業計画（案）

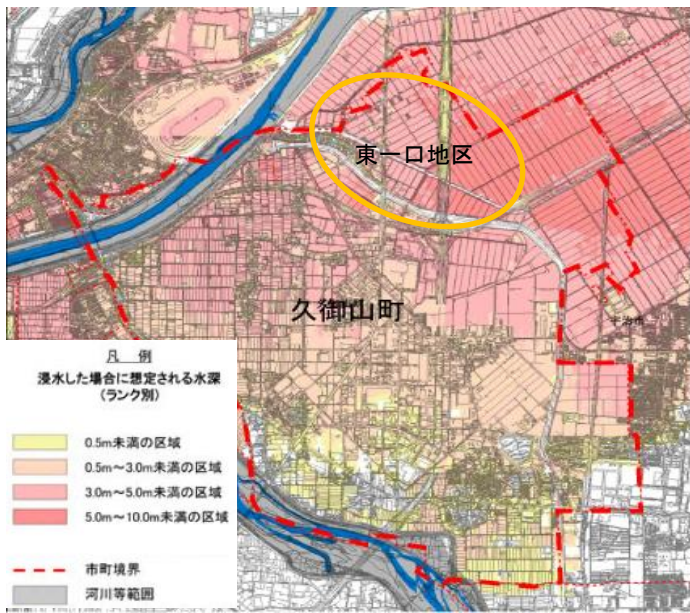
1 計画の目的

久御山町全域において、地域住民、町、府、国等が連携し、協力して、水害（洪水及び内水氾濫）に関する防災対策を円滑かつ効果的に実施することを目的とする。

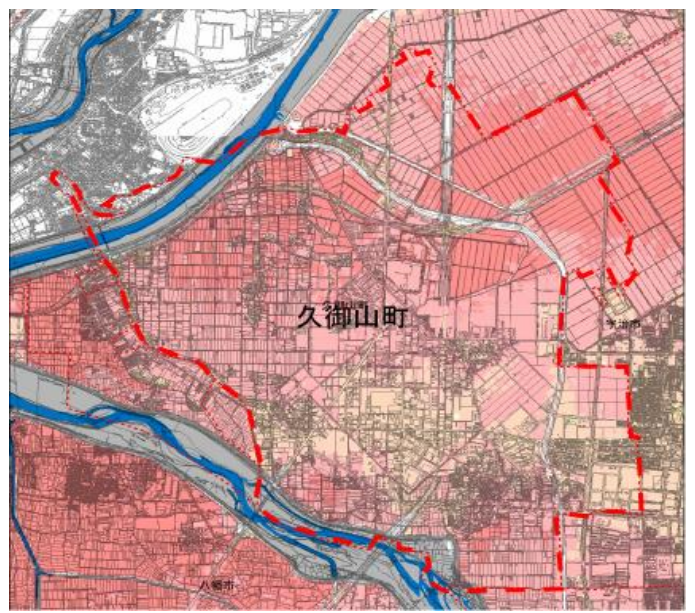
2 久御山地域の特徴

- 町の北西部を宇治川が西流し、南部には木津川が北西に流れており、大河川に3方を囲まれている。また、町の北西部の宇治川右岸側地域は桂川にも挟まれている。
- 町内全域が洪水浸水想定区域であり、ほとんどの地区で2m以上の浸水深となっており、内水氾濫実績のある地区もある。また、浸水継続時間についてもほとんどの地区で72時間（3日間）となっている。ただし、土砂災害警戒区域等はない。
- 久御山町は山城盆地の中で最も低い場所に位置しており、京都市、宇治市、城陽市などの上流域から流入する水が東一口地区に集まる地形となっている。

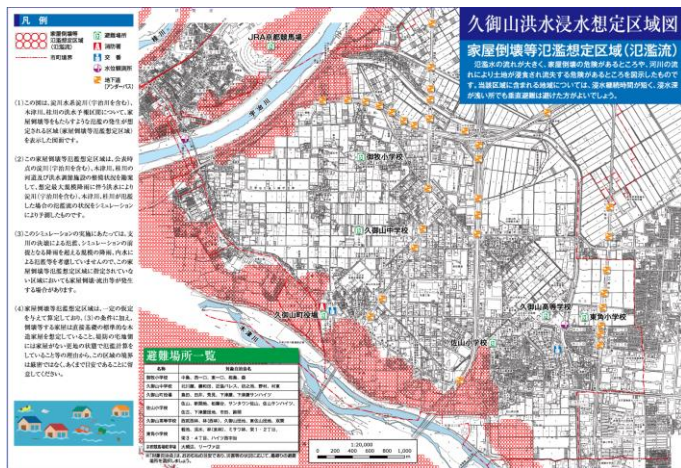
【宇治川洪水浸水想定区域図（想定最大規模）】



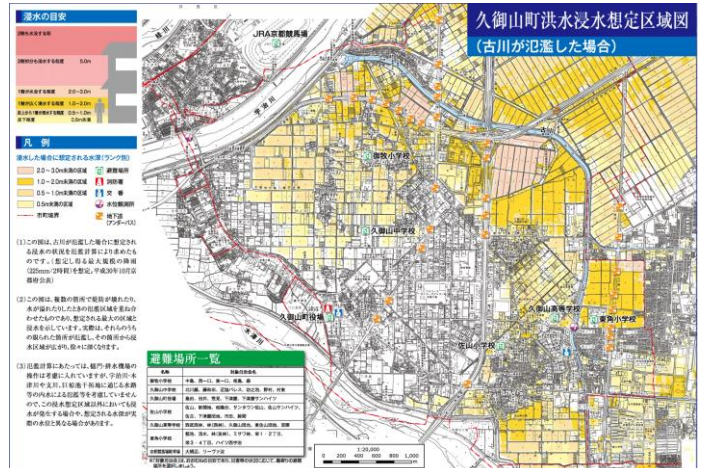
【木津川洪水浸水想定区域図（想定最大規模）】



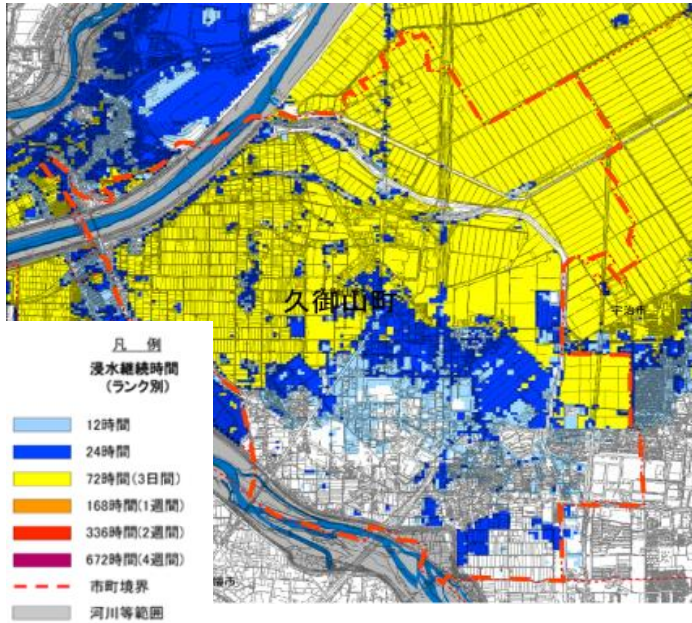
【久御山洪水浸水想定区域図
（家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流））】



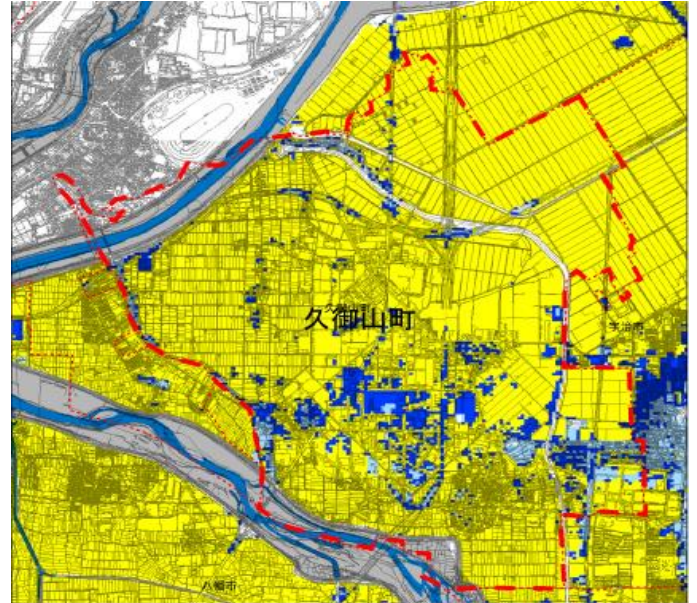
【古川洪水浸水想定区域図】



【宇治川洪水浸水想定区域図（浸水継続時間）】

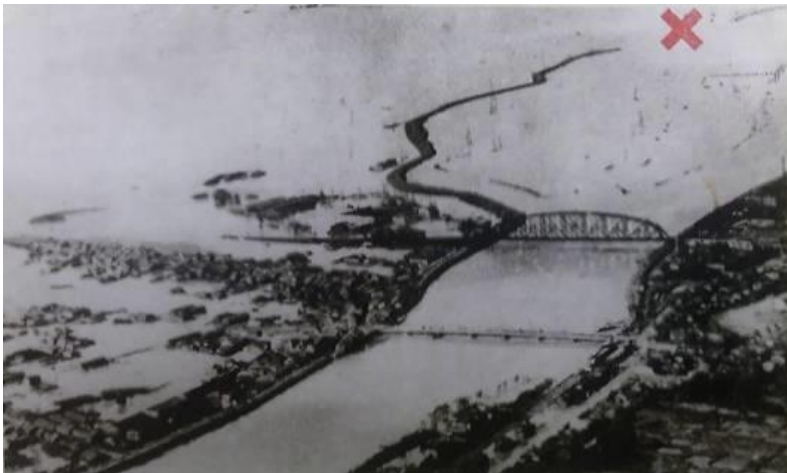


【木津川洪水浸水想定区域図（浸水継続時間）】



3 過去の主な浸水被害発生状況

昭和28年9月台風第13号によってもたらされた大雨の影響で宇治川の左岸堤防（現在の伏見区向島付近）が決壊し、現在の久御山町内全域が水没し、また、府内全域にわたって大きな被害を受けた。



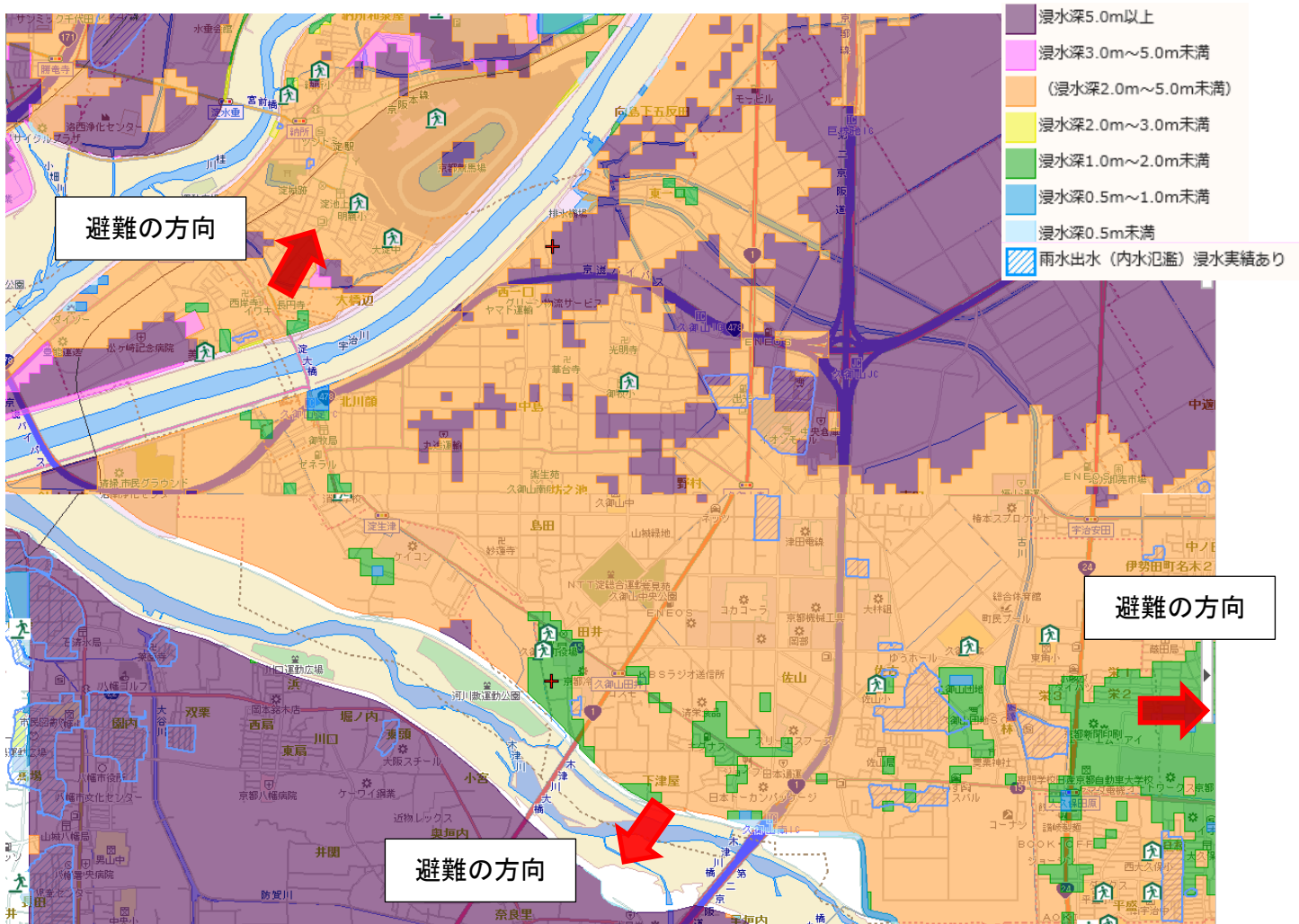
被害概要

- ・ 死者・行方不明者：0人
- ・ 負傷者：23人
- ・ 被害家屋：1,129棟
- ・ 田畑の被害：約770ha
- ・ 道路、橋梁被害：69箇所

堤防が決壊し、はん濫した宇治川
（×の地点が破堤箇所）

4 久御山町地域の主な課題

- 宇治川、木津川の堤防が決壊する恐れがある場合、どのようなタイミングでどこに避難するのか。また、どのように誘導すべきか。
- 内水氾濫が発生した場合に、どのようにしてできるだけ減災するか。



5 事業計画の目標

主な課題を踏まえ、久御山町における防災対策の目標を次のとおり設定する。

- (1) 宇治川、木津川が氾濫する場合の広域避難体制を確立させる。
- (2) 避難のタイミング、避難場所、避難経路など避難行動及び周知のあり方を定める。
- (3) 起こりうる内水氾濫に対する減災対策を進める。

6 現状と対策

(1) 河川対策

- 淀川水系河川整備計画（平成 21 年 3 月）（近畿地方整備局）※関係箇所を抜粋

宇治川では、天ヶ瀬ダムを効果的に運用し宇治川及び淀川本川において洪水を安全に流下させるとともに、琵琶湖に貯留された洪水の速やかな放流を実現するため、1,500 m³/s の流下能力を目標に、塔の島地区における河道整備及び天ヶ瀬ダム再開発事業による天ヶ瀬ダムの放流能力の増強を行うことによって、戦後最大の洪水である昭和 28 年台風第 13 号洪水を

安全に流下させることが可能となるとともに、淀川水系全体の治水安全度の向上に効果のある大戸川ダム、天ヶ瀬ダム再開発と合わせ、その結果、降雨確率で概ね 1/150 の洪水に対応できることを目標に整備を実施。

木津川においては、狭窄部（岩倉峡）下流の河川整備には長期間を要するため、現在実施中の上野遊水地と川上ダムを完成させるとともに、木津川、服部川及び柘植川の河道掘削等の河川改修を併せて実施することによって、狭窄部上下流のバランスを確保しながら、戦後最大の洪水である昭和 28 年台風第 13 号洪水を安全に流下させることができることを目標に整備を実施。

また、これまでに整備されてきた堤防は、材料として品質管理が十分になされているとは限らない土砂を用いて、逐次築造されてきた歴史上の産物であること等から、浸透や侵食により決壊するおそれがある箇所が多く存在するため、堤防の詳細点検の結果や背後地の状況等をふまえた堤防強化を行う必要がある。堤防の強度が全体として増すことで、決壊による氾濫が生じる場合でも避難時間の確保に寄与することが期待できる。

詳細点検の結果、堤防強化を実施する必要がある区間は宇治川で 4.6km、木津川下流で 48.2km（H21.3 時点）である。（図 1、2）

図 1 宇治川 堤防詳細点検及び対策位置図

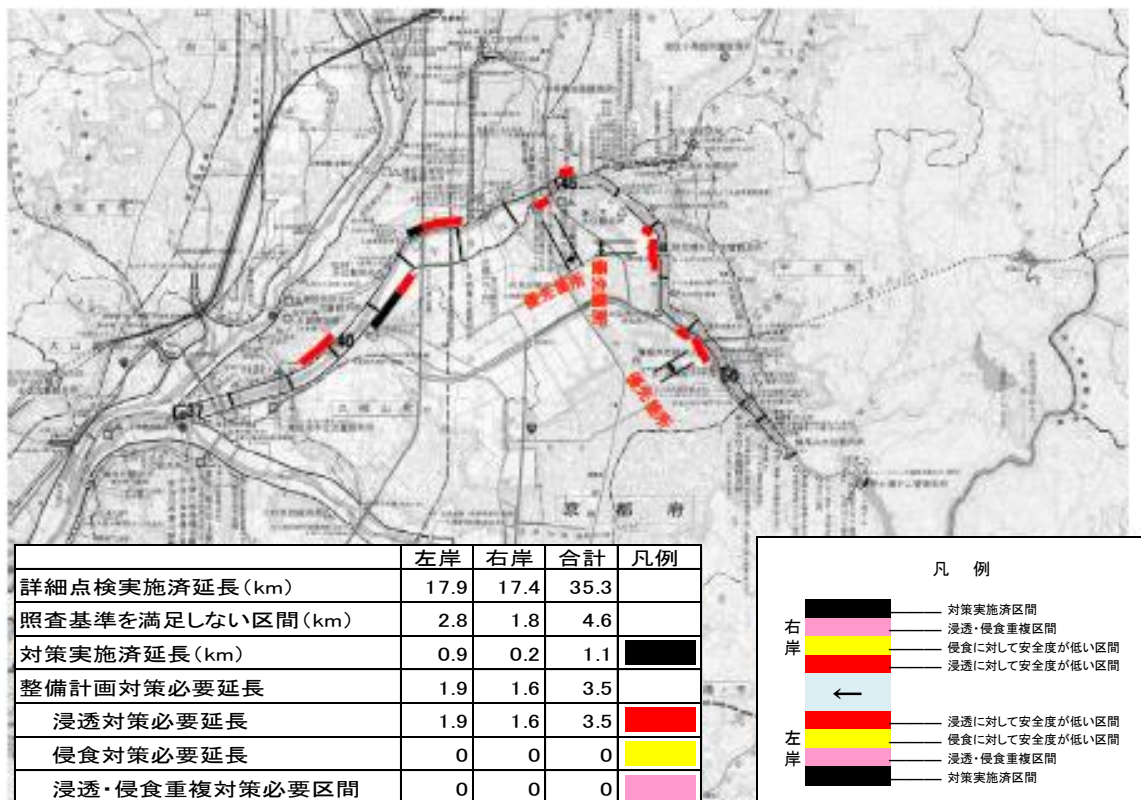
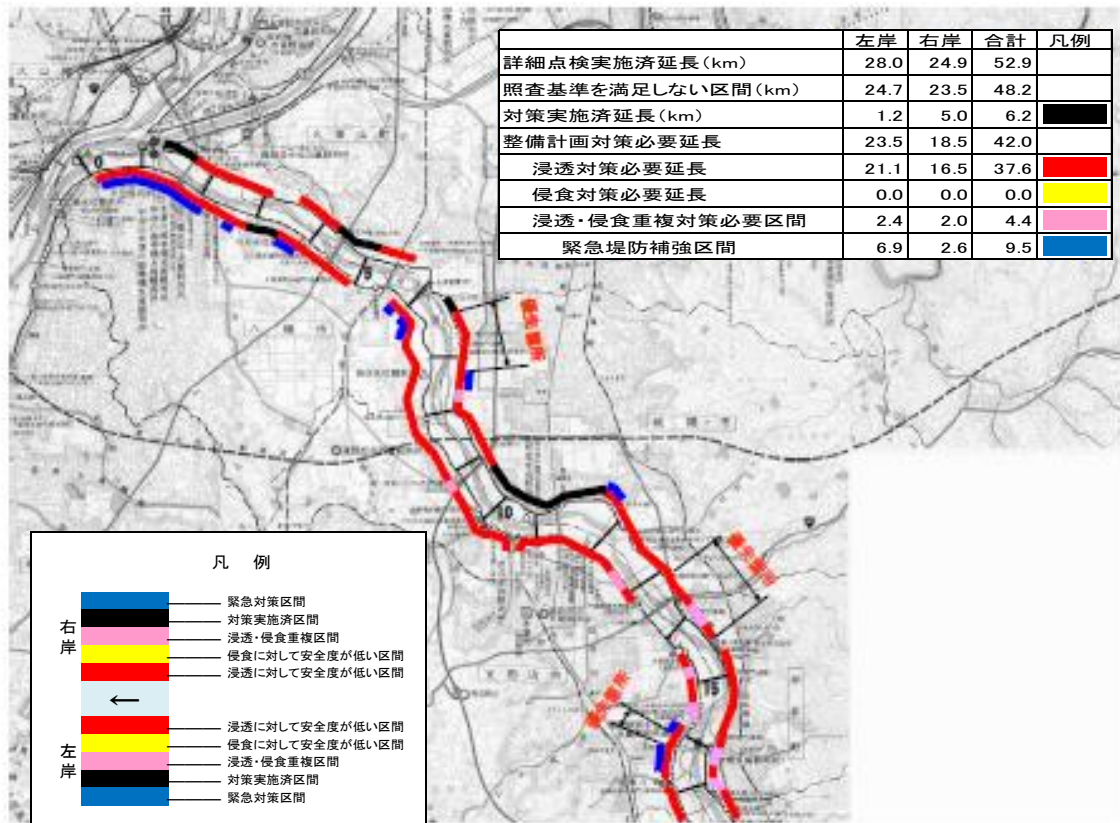


図2 木津川 堤防詳細点検及び対策位置図



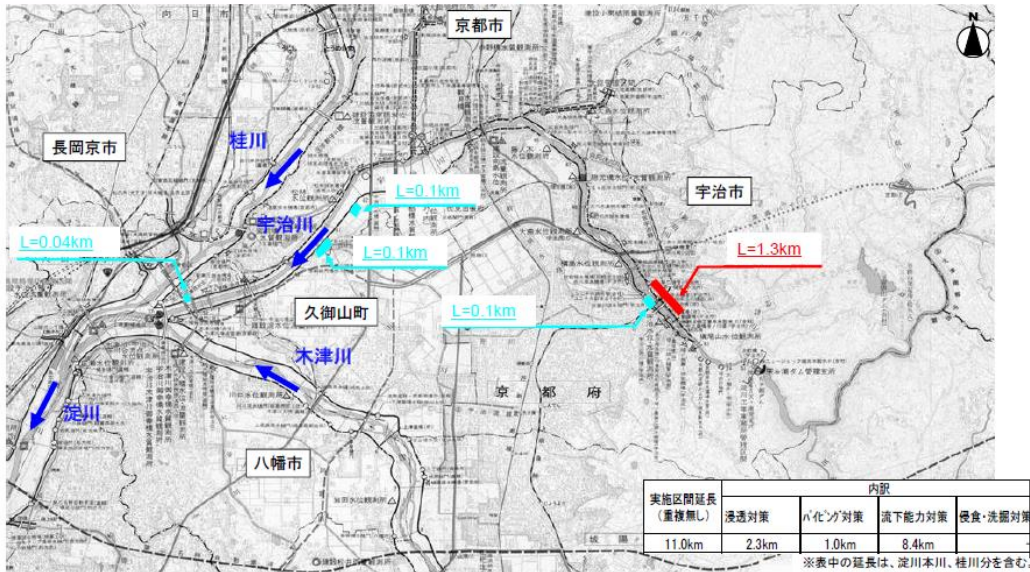
○「水防災意識社会 再構築ビジョン」における今後概ね5年間で実施する主な河川整備

(平成 27 年 12 月)

- ・ 「洪水を安全に流すためのハード対策」として、堤防整備・河道掘削等の流下能力向上対策、浸透・パイピング対策、侵食・洗掘対策に関し、平成 32 年度を目途に、今後概ね 5 年間で対策を実施。
- ・ 「危機管理型ハード対策」として、氾濫リスクが高いにも関わらず、当面の間、上下流バランス等の観点から対策に至らない箇所において、堤防天端保護や堤防裏法尻補強に関し、平成 32 年度を目途に、今後概ね 5 年間で対策を実施。

洪水を安全に流すためのハード対策 概要図 <宇治川>

凡例
■ 浸透対策
■ バイキング対策
■ 流下能力対策
■ 侵食・洗掘対策



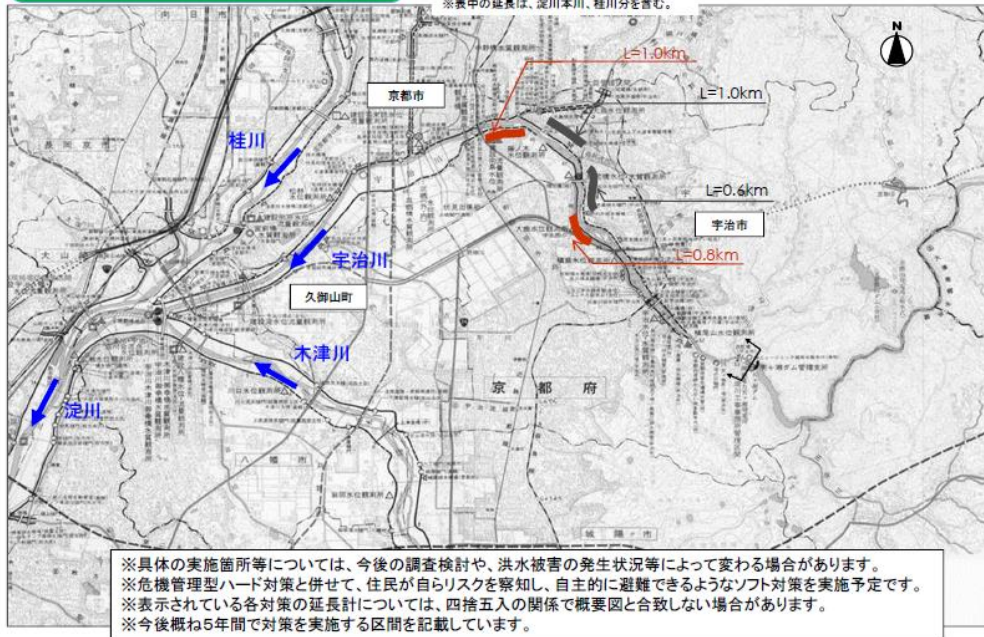
※具体的実施箇所等については、今後の調査検討や、洪水被害の発生状況等によって変わる場合があります。
 ※表示されている各対策の延長計については、四捨五入の関係で概要図と合致しない場合があります。
 ※今後概ね5年間で対策を実施する区間を記載しています。

危機管理型ハード対策 概要図 <淀川(宇治川)>

実施区間延長 (重複無し)	内訳	
	天端の保護	裏法尻の補強
17.2km	3.8km	13.4km

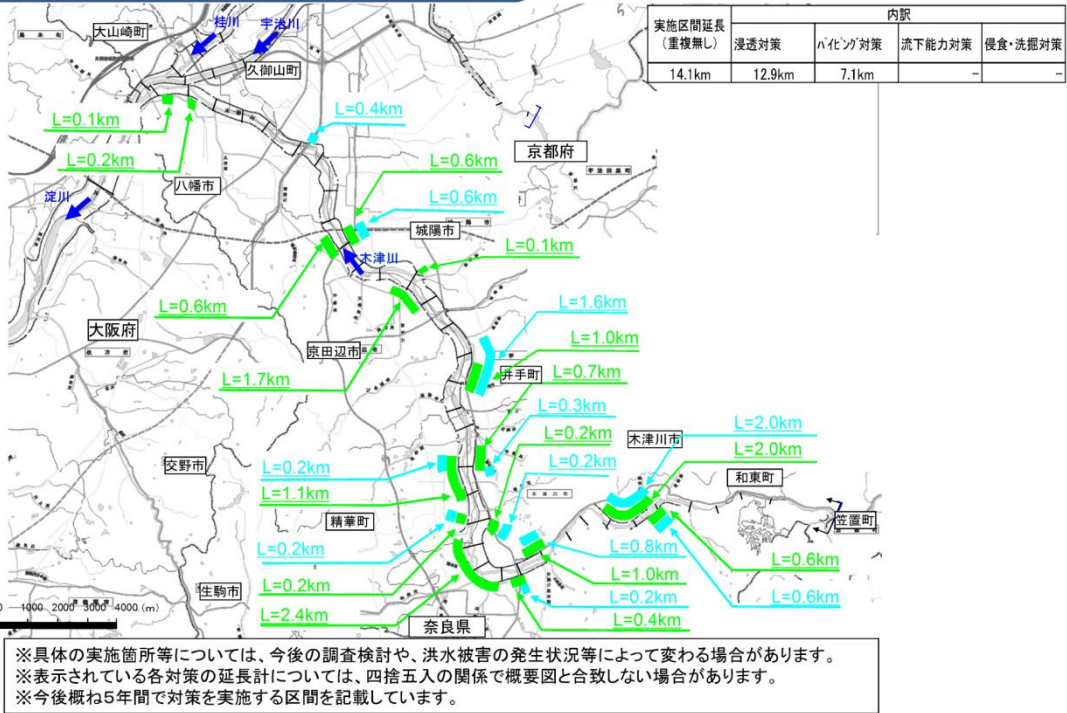
凡例
■ 天端の保護
■ 裏法尻の補強

※表中の延長は、淀川本川、桂川分を含む。



洪水を安全に流すためのハード対策 概要図 ＜木津川下流＞

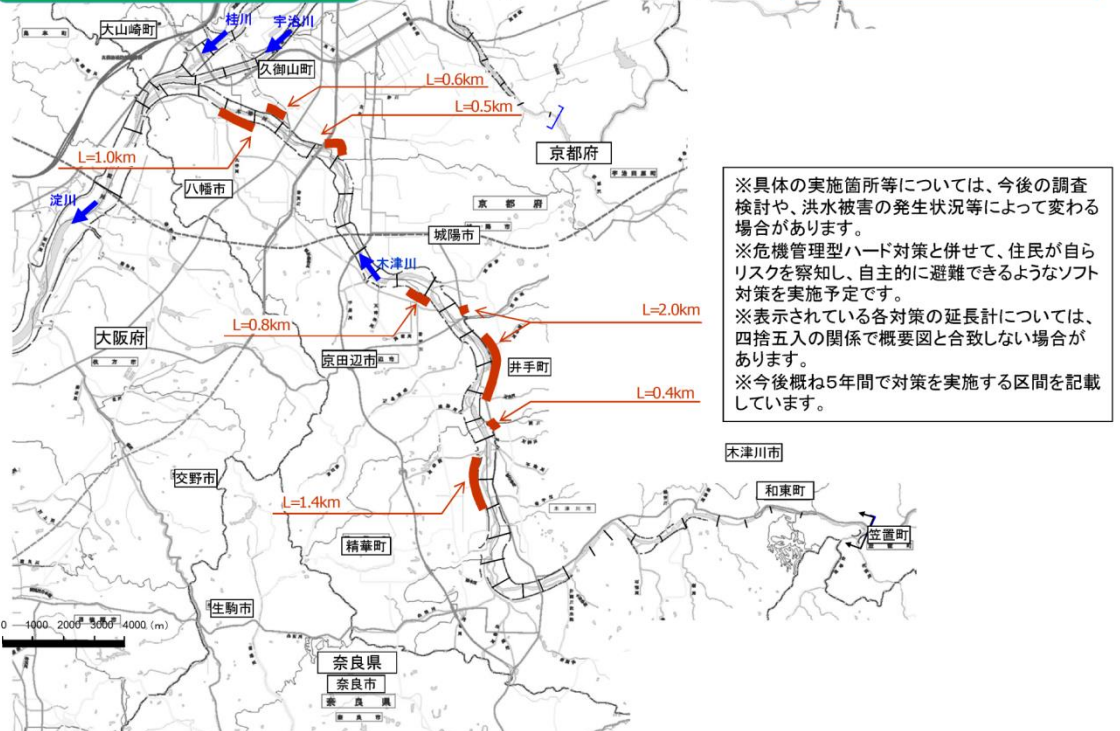
凡例
■ 浸透対策
■ ハイキング対策
■ 流下能力対策
■ 侵食・洗掘対策



危機管理型ハード対策 概要 ＜木津川下流＞

実施区間延長 (重複無し)	内訳	
	天端の保護	裏法尻の補強
6.7km	0.0km	6.7km

凡例
■ 天端の保護
■ 裏法尻の補強



- 淀川水系宇治川圏域河川整備計画（変更）（平成 29 年 7 月）（京都府）※関係箇所を抜粋
 淀川水系宇治川圏域河川整備計画は、対象期間を概ね 30 年として京都府が平成 29 年 7 月に策定しており、久御山町域に関係する古川、井川、名木川については、概ね 10 年に 1 回

程度の降雨により予想される洪水を安全に流下させることを目標に以下の内容で実施。

- ・古川 整備区間：宇治川合流点から一級起点までのL=約 8,500m
河道拡幅、河床掘削等
- ・井川 整備区間：古川合流点から一級起点までのL=3,160m
河道拡幅、河床掘削等
- ・名木川 整備区間：古川合流点から一級起点までのL=1,840m
河道拡幅、河床掘削等

(2) 内水対策

① 久御山町における整備

町管理の準用河川大内川（事業計画区域 629ha）は 1/10 規模で整備しており、佐山都市下水路（事業計画区域 42ha）、荒見都市下水路（事業計画区域 176ha）、大内都市下水路（事業計画区域 193ha）は 1/5 規模で整備を終えている。

現在、町として、10 年確率の雨に対して雨水貯留施設の整備を主とした内水排除対策を検討しているところである。

② 地域の雨水貯留対策

各家庭に設置する雨水貯留槽に対して設置補助を行い、府民総ぐるみで「貯める」取り組みを進めている。本町においては、平成 28 年度からマイクロ呑龍の設置補助制度（雨水貯留施設設置事業費補助金）を開始し、平成 29 年度末現在で 10 基を設置しているところである。

③ 大規模集客施設等の雨水貯留浸透設備及び耐水対策の実施状況

施設名	雨水貯留浸透対策、耐水対策等の実施状況
まちの駅クロスピアくみやま	調整池 2,430 m ³
京都岡本記念病院	中庭雨水貯留 100 m ³ 駐車場（透水性舗装） 6,510 m ² （駐車場面積） 受変電設備の高所設置

④ 排水機場

○近畿地方整備局 久御山排水機場 排水能力 90 m³/s 排水先 宇治川

○農林水産省 巨椋池排水機場 排水能力 80 m³/s 排水先 宇治川

- ・運転管理は、京都市、宇治市及び久御山町で組織される巨椋池排水機場管理協議会が操作規則に基づき実施する。

⑤ 排水ポンプ車

○近畿地方整備局

- ・配備地 近畿地方整備局管内各事務所 35 台（うち淀川河川事務所 3 台）
- ・総排水量 30～150 m³/min
- ・排水距離 50m

○京都府

- ・ 配備地 山城北土木事務所（京田辺市田辺明田1番地） 1台
山城南土木事務所（木津川市木津上戸18番地の1） 1台
- ・ 総排水量 30 m³/min ・ 排水距離 50m

(5) ソフト対策

① 防災講演会・研修会

【平成30年度】

名 称	水害を考えるタウンミーティング
主 催	久御山町
日 時	平成30年9月23日
内 容	・ 講演（久御山町文化財保護審議会 松村光朗会長） ・ パネルディスカッション（西脇京都府知事、村田久御山町消防団長、澤京都文教大学准教授、信貴町長）
参加人数	46名

名 称	久御山町自主防災リーダー研修会
主 催	久御山町
日 時	平成30年6月9日
内 容	・ 講演（岐阜大学流域圏科学研究センター 小山真紀准教授）
参加人数	43名

【平成29年度】

名 称	久御山町自主防災リーダー研修会
主 催	久御山町
日 時	平成29年6月3日
内 容	・ 講演（京都大学防災研究所 牧紀男副所長） ・ 説明（防災活動等に関する補助制度について）
参加人数	32名

【平成28年度】

名 称	地域防災力強化事業 自主防災組織等研修会
主 催	京都府（防災消防企画課）
日 時	平成29年2月22日
内 容	・ 講演（災害からの安全な京都づくり条例、マルチハザード情報提供システム） ・ 体験訓練（強風、地震、避難等）
参加人数	15名

名 称	防災研修会
主 催	久御山町、宇治市、宇治警察署
日 時	平成28年10月13日

内 容	・講演（京都大学防災研究所流域災害研究センター 川池健司准教授） ・実地体験（降雨時の冠水階段歩行体験など水害発生時を想定）
参加人数	約 60 名

名 称	久御山町自主防災リーダー研修会
主 催	久御山町
日 時	平成 28 年 6 月 25 日
内 容	・説明（防災活動等に関する補助制度について） ・講演（京都地方気象台 牧田次長）
参加人数	28 名

【平成 27 年度】

名 称	久御山町自主防災リーダー研修会
主 催	久御山町
日 時	平成 27 年 8 月 1 日
内 容	・説明（避難行動要支援者名簿、各種補助制度等について） ・講演、図上演習（京都府地域防災リーダー養成講座） 講 師：岐阜大学 小山真紀准教授 テーマ：風水害時の避難－その基準と考え方－
参加人数	46 名

② その他の対策

- ・ 出前講座の実施
- ・ NTT 西日本(株)京都支店との協定に基づく特設公衆電話回線の設置
- ・ 災害時情報伝達手段の整備に向けた検討
- ・ 久御山町における関係予算（平成 30 年度）

事業名	内 容	予 算 額
防災力強化総合事業	災害時情報伝達手段整備工事	162,028 千円
	総合防災訓練	3,163 千円
	洪水・地震ハザードマップ更新	1,735 千円
	避難行動要支援者名簿登録の手引きパンフレット	275 千円
	事業所向け垂直避難に係るパンフレット	50 千円
内水排除対策事業	内水排除対策庁内検討会議	80 千円

③ 自主防災組織による主な取組

- ・ 防災訓練の実施（御牧、佐山、東角）
- ・ 要配慮者の個別支援体制の確立（一部の自治会）
- ・ 災害時避難カードの作成と周知（東角）

7 対策の内容と実施主体

区分	対 策	実施主体
ソ フ ト	<p>広域避難体制の確立</p> <p>○木津川、宇治川の浸水想定区域図（最大規模降雨）では、町全域が浸水する想定のため、隣接市へ避難する広域避難の計画を策定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣接市において広域避難先を確保する。 ・広域避難を開始する目安を設定する。 ※木津川・宇治川の洪水予報、河川水位、ダムの異常洪水時防災操作、洪水警報の危険度分布など ・広域避難に関する避難情報の雛形を作成する。 ・広域避難の必要性、広域避難を開始する目安や広域避難先などを住民へ事前周知する。 ・広域避難先の開設方法、施設管理者への開設の連絡などの運営計画を作成する。 <p>○河川を明記した避難情報の発令を行う。 （宇治川、木津川、古川等を明記）</p>	久御山町
	○隣接市において広域避難先を確保するための調整	京都府
	○上記取組について助言、支援	国、京都府
対 策	<p>自主的な避難行動の促進</p> <p>○逃げ遅れを防ぐため、予め避難行動を決める避難行動タイムラインを、自主防災組織においてワークショップにより作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難行動を開始する目安（スイッチ）を設定する。 ・自主防災組織や隣近所で（特に高齢者に対して）避難情報の周知や避難行動開始を呼びかける者を決める。 ・逃げ遅れた場合のために、次善の避難場所を確保する。 <p>○避難行動タイムラインを記した災害・避難カードを配付し、住民が自主的に防災情報を入手し、避難行動をするよう促進する。</p> <p>○きょうと危機管理WEBなど防災情報や避難情報の確認手段を習得する。</p>	地域住民
	<p>○最新の洪水浸水想定区域図に基づいた水害ハザードマップを作成・周知し、地域のリスクを認識する。</p> <p>○京都市民防災センターにおいて避難体験研修を実施する。</p>	久御山町、 地域住民
	<p>○避難行動タイムラインの作成を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難行動タイムラインを作成するためのワークショップ開催に必要な協力をする。 	国、京都府、 久御山町

	<p>※自治会長等へ避難行動タイムラインの概要説明や避難行動を開始する目安（スイッチ）の設定等の支援をする。</p> <p>○きょうと危機管理WEBなど防災情報や避難情報の確認手段を周知する。</p>	
	<p>○避難行動タイムラインを使った（広域）避難訓練を実施する。</p> <p>○訓練を検証し、避難行動タイムラインへ必要な反映を行う。</p>	国、京都府、久御山町、地域住民
内水氾濫対策	内水氾濫を防ぐために、雨水を貯める対策を推進する	
	○地域の大規模施設等所有者等へ働きかけ同意が得られた場合、雨水貯留施設の設置、維持管理等の特定防災対策を行う指定施設に指定する。	京都府
	○各家庭に設置する雨水貯留槽を補助するマイクロ呑龍設置補助制度（雨水貯留施設設置事業費補助金）の実施	京都府、久御山町
ハ ー ド 対 策	○内水排除対策の検討 （10年確率の雨に対して雨水貯留施設の整備を主とした対策等）	久御山町
	○内水排除対策検討の支援	京都府
ハ ー ド 対 策	○既存の河川整備計画等に基づく対策の実施 主な整備内容 ・木津川下流 洪水を安全に流すためのハード対策 実施区間 14.1km 浸透対策 12.9km パイピング対策 7.1km 危機管理型ハード対策 実施区間 6.7km 裏法尻の補強 6.7km ・宇治川 洪水を安全に流すためのハード対策 実施区間 11.0km 浸透対策 2.3km パイピング対策 1.0km 流下能力対策 8.4km 危機管理型ハード対策 実施区間 17.2km 天端の保護 3.8km 裏法尻の補強 13.4km ・古川 整備区間：宇治川合流点から一級起点までのL=約8,500m 河道拡幅、河床掘削等 ・井川 整備区間：古川合流点から一級起点までのL=3,160m 河道拡幅、河床掘削等 ・名木川 整備区間：古川合流点から一級起点までのL=1,840m 河道拡幅、河床掘削等	国、京都府、久御山町
	○同報系防災行政無線設備の整備	久御山町

8 事業計画の期間

ソフト対策 (マイクロ呑龍設置補助制度除) 平成 30 年度～平成 32 年度

ハード対策 既存計画による

9 今後の進め方

- 本協議会において取りまとめた対策を集中的に取り組むこととする。
- 本協議会を継続的に設置し、定期的に取り組状況の報告、進捗等を確認するとともに、対策の推進を図る。
- 対策の実施において新たな課題等が生じた場合には、本協議会において情報共有を図りながら対策案を検討する。